

# 全釧路情報

2015.12.4 No.28 全釧路教職員組合

## 米海兵隊移転訓練反対全道集会に400人 ～沖縄と、青年と、全国の仲間との連帯を!!

### ●「戦争する国づくり」は許さない!の思いで400名が参加

今年も米海兵隊訓練が矢臼別で始まりました。アメリカ軍の基地が集中する沖縄県の「負担軽減」という名目で、平成9年から行われ、今年で15回目です。「沖縄と同質・同量の訓練」という約束も無かったかのように、訓練の量も質も拡大し固定化してきていると言わざるを得ません。しかも山火事や場外着弾が相次ぎ、地元の不安が強まるなかでも明確な反省なしに訓練を行う米海兵隊に批判の声も大きくなっています。このお便りを書く間、厚岸でも、朝から砲弾の音が激しく鳴り響いています。

11月22日(日)は、米海兵隊移転訓練反対全道集会が釧路市国際交流センターで行われました。今年は「日米安保体制の強化」をめざす「戦争法」を強行採決した直後の、特別の意味を持った集会で、各地から400名が集まりました。琉球新報東京報道部長の島洋子さんの講演、釧路では初めての試みとなるサウンドデモと、大変熱気に包まれた集会となりました。



### ●琉球新報島洋子さんの講演～沖縄のたたかいに学ぶ

島洋子さんの講演では、沖縄の歴史、「オール沖縄」のたたかい、「沖縄は基地で食っている」「海兵隊は抑止力」という2つの神話の誤りなど、沖縄の歴史と実態に触れた話がされました。

昨年の名護市長選、沖縄知事選、そして衆議院の総選挙を通じて「オール沖縄」の候補が勝利してきた状況については、公約を覆した与党議員への厳しい声がたくさん上がっていたこと、野党の連携が取れており、その要因として各野党は「腹6分」で行動していることを紹介しました。

そして、これまで69年間沖縄は『基地か経済か』という対立だったが、その構造が変わってきたことを指摘しました。基地から得られる収入より返還して活用した方が県民のためになることは明らかになっており、そして基地負担に伴う国からの財政支援についても人口一人当たりで換算すると大体4位から11位程度を例年推移しており、73.8%の基地を負担しているからと言って全国一の財政支援があるわけではないのだそうです。

政府による報道への圧力について、島さんは、「報道の自由を奪われ、言論の自由が奪われたあとにくるのは、戦争です。それを私たちは、70年前に経験しました」と力強く語りました。そして、権力に抗する住民という構図があるときに、中立・公正だといって報道しないのは、権力にくみしたことと同じであると言い、政府と沖縄県が対立しているときに、「中立」ではメディアが政府の監視する役割を果たせない、大きな政府を前に小さな沖縄県の声はかき消されてしまうと、沖縄の新聞社としての使命を話しました。

最後に、法廷闘争の問題について話されました。法廷闘争の場になると、



絶対的に大きな権力の前に勝つことはできないといわれているそうです。それでも、より大きな声で、そして国際的な場にも訴えていきたいといいます。翁長知事の奥さんは「もし万策尽きて基地建設を止められないなら、夫婦で辺野古に座り込みをする」と言っています。選挙で選ばれた知事を機動隊が排除する、そんな状況を皆さん思い描いてくださいと言われた時、オール沖縄の民意を、県民の願いを、権力で踏みにじらせてはいけないと、強く感じました。

### ● 釧路で初めてのサウンドデモ～寒さを感じさせない盛り上がりと一体感

集会後は、釧路では初めてのサウンドデモを行いました。札幌のサウンドデモを行っている道労連の方々に釧路まで来てもらって、サウンドカーの組み立て方、コールのやり方などを教えてもらいながら、行いました。サウンドカーの組み立ては、当日の朝9時から星が浦教育会館の駐車場で行いました。医労連の青年組合員を中心に集まり、斎藤書記次長も参加し、組み立ての手順をしっかりと学びました。

サウンドデモは、400名の長い隊列で、MOOから北大通を釧路駅前まで進みました。寒さを感じさせない盛り上がりと一体感で、リズムに合わせて元気よく声を出し、行進しました。沿道から若い人たちも「戦争反対!」と声を上げたり、商店から顔を出す人、車から手を振ってくれる人なども多く、とても注目を集めるパレードとなりました。



### ● たたかいを継続することの意味～「説明会」は矢臼別だけ

23日には、講演を行った島洋子さんが矢臼別に訪れ、古川書記長が案内しました。地元の方々との交流などの他、防衛局の訓練概要説明会にも参加しました。この説明会で明らかになったのは、現在、このような説明会を行っているのは全国で矢臼別1カ所だけだということです。他の移転訓練演習場では平成24年以降は説明会が行われていないのです。



私たちの関心が小さくなれば、説明会は無くされていってしまいます。国は、このような説明会を行いたくないのです。矢臼別の演習で説明会を継続させているのは、移転訓練反対のたたかいをこれまで継続してきたことの成果です。歯止め無くやりたい放題にさせないために、これからも、私たちの訓練反対の意思を伝えていくことが大事です。

## 「戦争させない!」の取り組みはまだまだ続いています!

道労連などが行っている毎週土曜13時の駅前宣伝行動は、今でも休まず継続中です。その他に「9月19日の強行採決を忘れない」ための毎月19日行動、文化の日にスタートした毎月3日の「アベ政治を許さない」のスタンディングも、それぞれ釧路駅前で18時に行っています。厚岸では毎月第1土曜日と19日に13時から街頭宣伝を行っています。戦争法の廃止まで、声を上げ続けましょう!

